

平成30年度 夢風船 事業実績報告書

1 総括

30年度はチーム支援の強化により、活動の更なる充実と、利用者一人ひとりの発展的な生活をテーマに取り組んだ。2つのグループに共通する重点目標を利用者の生活全般の支援、可能性や能力の伸長、健康管理の充実としたうえで、1Fグループは利用者の主体性の向上、2Fグループは安全確保と、各グループの利用者の状況に応じた個別の目標を設定した。事業の重点目標は年間を通じて、組織的に共有、実践され、その効果もあったと感じているが、利用者数の増加に対して、職員態勢が十分に整わないことも多く、利用者一人ひとりに合わせた個別のプログラムの充実に苦勞した年でもあった。特に健康管理のためのウォーキングやプールについては一人当たりの頻度を減らさざるを得ない状況があり、職員態勢とのバランスを図りながら一人ひとりの実施目標回数の再設定が必要となっている。

30年度は新たに2名の新規利用者を迎え入れ、利用者数は29名となり、施設の機能からも受入れの限界点に達した。利用者数の増加に対して、一部プログラムの回数を減らすことはあったが、基本的には利用者個々にあったプログラムや希望者全員の入浴など、29年度まで活動を継続と、目標に対しての発展的取組みも行うことが出来た。31年度は基本的な30年度の目標を継続しながら、より充実させるため、活動内容や職員配置について再検討、職員のスキルアップなどに取り組みたい。

2 事業概要

- 1) 事業所名 : 夢風船
- 2) 事業種別 : 生活介護
- 3) 所在地 : 東京都小平市小川町2-1931-1
- 4) 経営主体 : 社会福祉法人未来
- 5) 定員 : 20名
- 6) 現員 : 28名 (平成31年3月31日現在)
- 7) 法人認可年月日 : 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 : 平成26年11月1日
- 9) 職員 (平成31年3月31日現在)
 - 管理者 1名
 - サービス管理責任者 1名 (管理者兼務 : 常勤換算1.0)
 - 生活支援員 15名 (常勤換算14.0)
 - 看護職 2名 (常勤換算2.0)
 - 嘱託医 1名

3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現の支援。
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。
- 3) 安心と希望の持てる生活。

4 基本方針

- 1) 日中活動の保障
- 2) 豊かな生活の支援
- 3) 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援

- 4) 個別支援計画に基づいた計画的な支援
- 5) 利用者への相談支援
- 6) 安心できる将来への支援

5 実施事業（活動内容）

- 1) 就労支援事業
 - ① 資源回収作業
 - ② 弁当箱配達回収作業
 - ③ マンション清掃受託作業
 - ④ シュレッダー作業
 - ⑤ PC入力作業
 - ⑥ その他受注作業
- 2) 生活支援事業
 - ① 入浴（毎日）
 - ② 運動プログラム（水泳・ウォーキング）
 - ③ バイタルチェック（朝・入浴前）
 - ④ 余暇支援事業
- 3) 行事等
 - 4月 新社会人を祝う会
 - 5月 運動会
 - 6月 外食
 - 7月 ボウリング大会
 - 8月 川遊び
 - 9月 北極南極資料館見学
 - 10月 芋掘り
 - 11月 旅行（千葉県）
 - 12月 忘年会・東京競馬場見学
 - 1月 新年会・成人式
 - 2月 白玉作り
 - 3月 防災訓練

6 日 課

開所・送迎	8：30～9：30
バイタルチェック	9：00～9：30
朝礼	9：30～9：40
出席確認・連絡事項・活動の確認	
活動	9：40～11：30
作業（資源回収作業／弁当箱配達回収作業／清掃作業／PC作業、室内軽作業）	
運動プログラム・・・水泳、ウォーキング	
入浴	
昼食・休憩	11：30～13：30
昼礼	13：30～13：35
連絡事項・活動の確認	
活動	13：35～15：50
作業（資源回収作業／弁当箱回収作業／清掃作業／PC作業、室内軽作業）	
運動プログラム・・・水泳、ウォーキング	
入浴	

終礼	15:50～16:00
送迎・清掃	16:00～17:10
職員打ち合わせ	17:10～17:30

7 重点課題・目標に対する成果と課題

1) 活動

1 F—利用者の主体性の向上に向けた活動

朝礼、昼礼、終礼等の司会進行や行事の企画など、利用者が参加できる場面や自ら考える場を増やし、活動に向けた意欲と主体性の向上を図る。

【成果と課題】

朝礼等については、利用者がローテーションで進行を行うことから始めた。誘導的になることもあるが、利用者の意欲的な姿勢を引き出すのに大きな効果があり、活動への意欲向上に繋がっている。また、行事の企画については希望の聴取に留まった。活動内容について自ら意見や提案を表明する利用者もあり、自主性の向上が見られる。特に法人のHPリニューアルについて利用者から提案があったことは大いに評価すべきことであった。

2 F—利用者の安全確保

利用者個々の特性を理解のうえ、見守りの強化や精神的な安定に向けた環境設定やコミュニケーションにより、無断外出や他害行動、自傷行為などの防止を徹底する。

【成果と課題】

離接行動や他害行動については、利用者の状態に応じての予防措置や、見守り態勢のシステム化、職員間の声かけの徹底など、経験に基づくノウハウが蓄積され、未然防止の精度は向上している。また、根本的な解決策としての利用者本人の安定化についても、不安の原因究明に対する取組みを継続して行っており、効果が出ていると感じる。

1・2 F 共通—

(1) 利用者の生活全般にわたる支援の充実。

本人や家族の高齢化等による生活基盤が脆弱化しつつある利用者に対して、相談支援の充実、衛生保持、健康管理、日常の軽微な事柄への支援、専門機関への連絡調整、将来の居住環境整備に向けた準備など幅広く柔軟な支援を行う。

【成果と課題】

事業所内のことのみでなく、生活全般に関する相談への対応に取り組んだ。GHへの入居、入院治療等の対応など、必要に応じてケア会議を開催し、生活課題の解決を図った。

(2) 各利用者の可能性の発見と伸長にむけた活動（作業）の開拓と支援

活動や生活場面において、様々な経験を通して能力や興味関心の発見とその伸長を目指すことで、一人ひとりがやりがいをもって生活できるように支援を行う。

【成果と課題】

1 Fでは特技の折紙を活かした作業の開拓や他の事業所へ出向いてのPC作業、法人HPへの提案など新しい作業への取組みが行われ、2 Fではこれまでの活動や作業を継続する中で、少しずつ幅を広げる取組みを中心に行った。継続の中で利用者の自主的な動きが見られるようになってきている。

(3) 健康管理の充実

看護職を常勤2名態勢にし、一人ひとりの健康管理や衛生保持をより丁寧に行い、疾

病、けが等への迅速な対応を行う。

【成果と課題】

看護師1名の退職により、常勤看護職1名の態勢となった。しかし、聴診器、パルスオキシメーターの購入による健康チェックの充実、服薬ファイル作成による誤薬防止策強化、バイタルチェック表に利用者毎に平均値の記載など、健康管理の充実が図られている。

2) 人材育成

- (1) 主任 ①事業全般の把握と判断力の向上
②職員行動観察による適性や能力の把握とその活用のための手法の獲得
③地域の状況把握とネットワーク強化

【成果と課題】

業務の範囲を拡大し、施設の全体像把握や職員管理を中心に取り組み、少しずつスキルの向上が見られる。特に関係機関との関係構築や労務管理事務能力及び職員への関与については向上が見られた。文書の論理性、課題等への気付きと主体的な対応策の実施などが今後の課題。

- (2) 生活支援員 ①リーダー職及びその候補者の育成
②相談支援のスキル向上
③業務標準化の実施
④職員間の連携強化(より良い支援の為に協力関係・相互干渉・情報共有・意見交換等)

【成果と課題】

リーダー職含め一般的に経験値の向上と共にスキルの向上が見られる。リーダー職2名については会計の知識向上や他の職員への関与の強化を中心に取り組み成果が出ている。また、一般的に業務改善への提案が活発になされていることが評価できると共に、連携による標準化も徐々に効果が出ている。

- (3) 出納職員候補の育成

【成果と課題】

2名の職員を対象に経理に関する学習会を行い、仕訳、計算書、経理規程の理解が進んだ。証憑の整理、会計ソフトの入力まで行える知識の習得が進んだ。

3) 経営管理

- (1) 介護給付費の安定確保

- ① 1日平均利用者22人(28人在籍利用率80%)を目標とし、利用者の安定通所を図る。(29年度比0.8人増)
(具体的方策)
・送迎場所や時間など柔軟な対応を行う。
・健康状態の確認など家庭やグループホームとの連絡調整を密に行う。
② 介護福祉士などの資格取得を推奨し、職員の専門性に対する加算確保に努める。

【成果と課題】

- ① 1日平均利用人員は23.26人と目標値を上回った。
② 1名が介護福祉士を取得したが、有資格者1名の異動により福祉専門職員配置加算は変更がなかった。

(2) 月次試算による状況分析

毎月の月次試算の分析を丁寧に行い、予算執行を計画的に行う。緊急的支出に対しては、充当資金の調達のため計画の優先順位を設定する。

【成果と課題】

必要に応じて補正予算を編成し、計画通り執行された。

(3) 節電等による経費削減

水道光熱費や消耗品など、活動に影響が出ない範囲で節約意識を共有し、経費削減に努める。

【成果と課題】

消耗品は在庫確認を丁寧に行い、計画的に購入できた。節電については消し忘れや未使用場所の照明点灯などまだ不十分であった。

8 その他の成果と課題

1) 地域の他の日中活動系事業所と連携を図り、療養介護施設入居者1名の日中活動充実のため、活動の場を提供した。月1回、体験実習として受け入れ、作業やその他の活動へ参加できるよう支援を行った。他の2事業所も各々月1回受け入れを行うことで、当該入居者に対して月3度の外出の機会を設けることができた。

2) 毎日のミーティングで利用者の状況や支援計画の実施状況について丁寧に情報共有を行ったことで、グループの枠を超えて全職員が利用者の状況を知ることができ、支援方針の統一が図られた。

3) 特別支援学校卒業生1名を4月に、他事業所からの利用希望者1名を5月に受け入れ、原因が29名となり、新規利用者の受け入れが困難な状況となった。特別支援学校3年生からの31年度の利用希望については、利用者と学校に夢の樹みどりで受け入れが可能となるよう説明を行ったほか、夢の樹みどりで受け入れ体制の為の環境整備に協力した。

4) 毎朝の体重、体温、血圧、脈拍の測定結果をグラフ化し、全利用者への配布を行った。

9 開所状況

- | | | | | |
|---------|-------------|-----------|------|------------|
| 1) 開所期間 | 自 | 平成30年4月1日 | 至 | 平成31年3月31日 |
| 2) 開所日数 | (1) 週開所日数 | 5日間 | | |
| | (2) 開所時間 | 午前9時～午後4時 | | |
| | (3) 年間延開所日数 | 243日間 | (前年度 | 243日) |
| | (4) 平均活動時間 | 7時間 | | |

10 利用状況

- | | | | |
|-------------|--------|------|---------|
| 1) 利用者延人員 | 5,651人 | (前年度 | 5,116人) |
| 2) 1日平均利用人員 | 23.26人 | (前年度 | 21.41人) |
| 3) 体験実習者延人員 | 21人 | (前年度 | 30人) |
| 4) 1日平均実習人員 | 0.09人 | (前年度 | 0.12人) |
| 5) 実習者実人員 | 6人 | (前年度 | 12人) |

11 利用者状況(平成31年3月31日現在)

- | | |
|-------|----|
| 1) 年齢 | |
| 20歳未満 | 1名 |

20歳以上30歳未満	15名
30歳以上40歳未満	2名
40歳以上50歳未満	9名
50歳以上60歳未満	1名

2) 障害の状況

愛の手帳1度	1名	(内身障手帳所持	1名)
愛の手帳2度	20名	(内身障手帳所持	3名)
愛の手帳3度	2名	(内身障手帳所持	2名)
愛の手帳4度	2名	(内身障手帳所持	1名)
身体障害者手帳1級	4名	(内愛の手帳所持	2名)
身体障害者手帳2級	5名	(内愛の手帳所持	4名)
身体障害者手帳5級	1名	(内愛の手帳所持	1名)

障害支援区分 平均障害支援区分 5.3 (前年度 5.2)

3) 通所手段 送迎車利用 28名 (内交通機関併用1名・家族送迎併用1名)

4) 居住状況 管内居住 18名 管外居住 10名

5) 性別 男性 21名 女性 7名

1.2 利用者工賃

平均工賃	1人	月額	: 6,121円	日給	: 375円
	(前年度1人)	月額	: 5,116円	日給	: 313円)

1.3 余暇支援実習状況

1) 参加者 実26名 延べ382人

2) 延実施回数: 150回

月別実施状況	実施月	実施回数	延参加人数
	4月	: 10回	28人
	5月	: 12回	31人
	6月	: 9回	31人
	7月	: 14回	41人
	8月	: 12回	34人
	9月	: 9回	20人
	10月	: 17回	32人
	11月	: 11回	33人
	12月	: 15回	33人
	1月	: 14回	39人
	2月	: 14回	29人
	3月	: 13回	31人
	合計	150回	382人

内容別実施及び参加状況	内容	実施回数	延参加人数
	カラオケ	26回	58人
	入浴	31回	82人
	散歩	5回	9人

ドライブ	14回	36人
ボーリング	22回	78人
調理	12回	31人
外食	9回	12人
ゲームセンター	3回	7人
散髪	6回	22人
スイカ割り	1回	11人
プール	13回	28人
食事会	8回	8人
合計	150回	382人

1.4 環境の整備

定期的に室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

1.5 防災

災害時避難訓練を年2回、防災訓練を年1回実施した。